

リスニング・タスクの設計

兵庫教育大学大学院 達川 奎三

0. はじめに

多くの英語教育関係者が、日本の英語授業において「聞いたり」「話したり」する技能の指導の必要性を説いてきた。その結果、1994年4月から「オーラル・コミュニケーション」という新しい科目がスタートしたが、その教材や指導のあり方はより一層研究・工夫がなされなければならないのが実情である。とりわけ、「リスニング（聞き取り）」の領域においては、「その技能のテストはなされてきたが、その技能を身につけるための適切な指導はなされていない」とよく言われる。本稿では「聞く」という活動の指導において根幹をなすべき「リスニング・タスク」の設計について検討をし、それに基づいて中学校・高等学校の教科書分析を行ない、今後の指導のための示唆を得たいと考えている。

1. 2つの変数の調整

リスニング・タスクの設計は言い換えれば、学習者のリスニング能力に合わせたタスクの調整、あるいは段階付けをするという作業になる。この点について Richards(1983: 232), Anderson & Lynch(1988: 89)は大きく分けて、input factors と task factors の2つの変数があるとしており、彼らの考え方をここでは視座として利用したいと思う。

【図1】



(Richards 1983: 232)

2. Input factors

input は medium factors と text factors の2種類に分けられる。

2.1. Medium factors

1. The type of delivery (Rixon 1986: 56)

- ・ The speed of spoken texts
- ・ Pause
- ・ Accent
- ・ Clarity of pronunciation
- ・ Background noise (and voices)

2. The number of speakers

- ① 話し手の人数が増えるほど理解が困難になる。
- ② 同性の二人による会話の方が男女二人による会話よりも困難である。
- ③ 「三人」が無理なく処理できる限界である。

3. Support (visual aids, non-verbal signals, quality of voice, title or headline などの与え方)

2.2. Text factors

reading との共通部分の多い text factors について、まとめると次のようになる。

1. Familiarity of subject matter

- ・ General Background Knowledge (Script, Schema)
- ・ Cultural factors

2. Density of information

(Redundancy が多いかどうか)

3. The explicitness and sufficiency of the information

(The type of referring expressions と情報が十分に与えられているか)

4. The discourse structure and the clarity with which this is signalled

(どのように information が組み立てられているか)

5. Chronological order

(談話の展開が、時間の流れに沿っているかどうか)

6. The type or 'genre' of text (Brown & Yule 1983: 85)

('static' or 'dynamic' , or 'abstract')

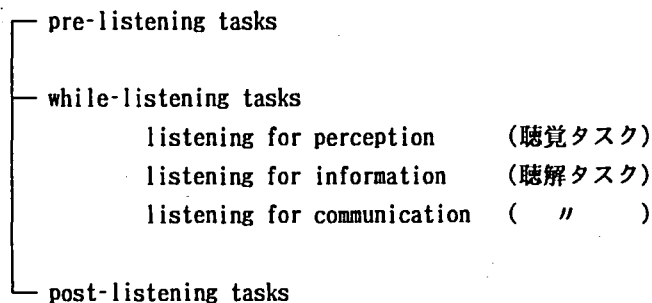
7. その他

- ・ Grammatical complexity (syntactic complexity)
- ・ The length of text
- ・ The amount of low frequency vocabulary

3. Task factors

リスニングの授業は、下図のような3種類のタスクから構成されている。

【図2】



3.1. Pre-listening tasks

Underwood (1989: 44) は、「単語集めや絵の提示などを行って schema activation を行い、内容理解を助けたら、『聞きたい』という動機付けのために、pre-listening を設計する」と述べている。この pre-listening の内容や量によって、次の段階の while-listening の負荷は大

きく左右される。

3.2. While-listening tasks

while-listening は、聴覚タスクと聴解タスクに大別できる。

3.2.1. 聴覚タスク

Ur (1984: 35-46) は、聴覚タスクを word-level と sentence-level に分け、特に word-level における minimal-pair distinction においては、それをテストするのではなく、訓練することを目的とすべきであるとしている。また、このような perception の作業は単調になりがちであるので、多様なテクニックを用いるべきだとも述べている。諸学者の考えをまとめてみると、聴覚タスクの設計においては、'the rhythmic structure of English' と 'the principle of least effort' (連結、弱形、脱落、同化、リズムの等時間隔性、イントネーションなど) を学習者に理解させることが肝要であると言える (Brown 1990: 55, 吉田 1984: 80)。

3.2.2. 聴解タスク

3.2.2.1. 代表的な task type の分類

聞いた passage の情報を理解したり、相互作用のある communication につなげるための聴解タスクであるが、その作業領域としては Richards (1983: 235) が示しているような 8 つの分類が代表的なものとして挙げられる。

- | | | |
|------------------------------|--------------|--------------|
| ① Matching or distinguishing | ④ Scanning | ⑦ Answering |
| ② Transferring | ⑤ Extending | ⑧ Predicting |
| ③ Transcribing | ⑥ Condensing | |

3.2.2.2. 「聴解タスク」段階付けの試み

上記の Richards の分類は学習者が何かを聞いて行う作業領域を示したものであり、多くの研究者が言及している (Lund 1990, Morley 1991)。しかし、必ずしも①から⑧の順に clear-cut に段階付けができるとは言い難いと思う。そこで、彼の分類をベースにしながらも、リスニング用教材に登場する代表的なタスクをより具体的に盛り込み、「聴解タスク」の段階付けを試みる。諸学者の説 (Richards 1983, Ur 1984, Anderson & Lynch 1988, Rost 1991, Underwood 1989, Nunan 1989, 1991, Brindley 1988, 竹蓋 1989) を総合すると、以下の 4 点が比較的客観的に判断し易い基準であると考えられる。

(a) 反応をどのような手法で求めるか。

1. verbal か、または non-verbal か。

2. 選択肢が与えられているかどうか。

(b) 理解が partial でよいか、global でないといけないか。

(c) 反応が mechanical でよいか、meaningful, communicative なものを必要とするか。

これらの基準をもとに、「聴解タスク」の負荷の軽重をとりまとめてみると【表 1】(次ページ) のようになる。それぞれの段階がオーバーラップする部分も残るがリスニング用テキストに登場する代表的なタスクは大まかにこのような段階付けができると思う。

3.3. Post-listening tasks

post-listening では、これまでのような内容理解のチェックという作業だけに終始せず、それ自身が目的を持った活動にすべきである。while-listening までは負荷の重いタスクであった場合には、interaction の十分望める oral extension work を与えても良いし、また while-listening のタスクが適当であった場合には、少し長めのテキストを読ませて内容が一致するかどうかを判断させたり、聞き取りの際に取ったメモをもとに文章の形に直してみる、というような他技能との統合を図ることのできる段階と言える (Blundell et al. 1981: vii)。

【表1】「聴解タスク」の段階付け

	(a)1	(a)2	(b)	(c)	負荷集計
Performing action	-		-	-	-3
Identifying	-	-		-	-3
Finding discrepancies	-	-		-	-3
Drawing a picture	-			-	-2
Partial Dictation			-	-	-2
Filling in the grid			-	-	-2
Following a map	-			-	-2
Multiple choice (/ T or F)		-	-		-2
Verbal response			-		-1
Full Dictation			(-)		0
Sequencing	-	(-)	+		0
Main idea comprehension			+		1
Predicting or Inferencing		+	+	+	3
Full comprehension to summarize	+	+	+	+	4
Evaluating or Problem-solving	+	+	+	+	4

- 負荷が軽い
+ 負荷が重い

4. 分類表の作成と教科書分析

4.1. 'Text type-task' matrix の作成

次に、今まで検討してきたことをより良いタスク設計にどのように生かすかということを考えてみたい。その一つの方法として、リスニング・タスクの難易を点検するための「分類表の作成」ということを提案したい。なぜなら、この分類表を作成することには少なくとも次のような3つの意義が見い出せるからである。

- ① 教師にとってタスクの負荷調整のための視座となり得る。
- ② 作業領域バランスの点検ができる。
- ③ 個々の学習者の(不)得意な作業領域の明確化が可能となり、指導のポイントを絞ることができる。(診断)

縦軸に task の具体例を置き、横軸には input の要因に関わるもののうち、客観的な判断のしやすい「text の type」を置いて matrix を作成してみる。(【表2】参照)

【表2】 ‘Text type-task’ matrix

more difficult →

task \ text type		Static		Dynamic	Abstract
		Description	Description/ Instruction	Story telling	Opinion Expressing
more difficult	Action				
	Identifying				
	Discrepancies				
	Drawing				
	Partial Dictation				
	Filling in Grid				
	Following a Map				
	Multiple Choice				
	Verbal Response				
	Full Dictation				
	Sequencing				
	Main idea(s)				
	Predicting or Inferencing				
	Summarizing				
	Evaluating or Problem-solving				

4.2. 中学校・高等学校用英語教科書のタスク分析

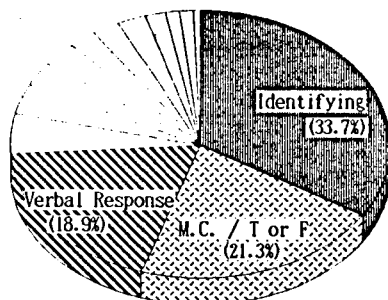
‘Text type-task’ matrix を用いてリスニング・タスクの分析を行った。中学校1～3年生と高等学校オーラル・コミュニケーションB（以下OC-B）の採択率の高い上位5社の教科書を検討した。占有率は中学校約90%、高校OC-Bが約60%である。分析の結果は Appendix A からE に示してある。

4.3. 分析結果についての考察

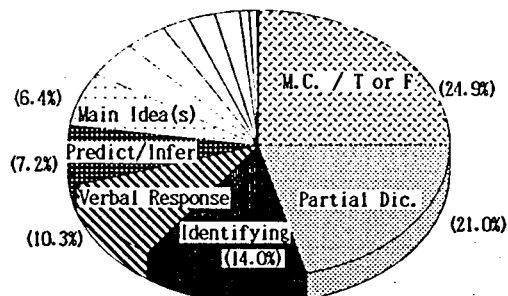
4.3.1. タスクの側面から

① 高校段階においては手法が多彩になっている。【図3、4】

【図3】 タスクの種類（中学校）

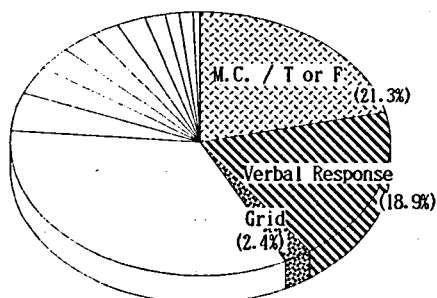


【図4】 タスクの種類（高校0C-B）

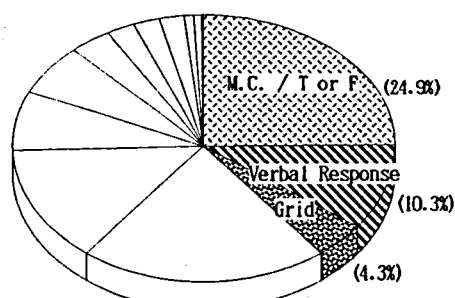


- ② 動作で反応を求めるタスクがほとんどない。
- ③ 絵などを見て Identifying させるタスクは、中学校・高校0C-Bともに充実している。（ビジュアルの多用）
- ④ Dictation が中学校ではほとんど取り入れられていない。
- ⑤ Multiple choice, Verbal response, Filling in the grid などの scanning に属する作業は、取り組み易く、内容・量ともに充実している。【図5、6】

【図5】 scanning に関わるタスク（中学校）



【図6】 scanning に関わるタスク（高校0C-B）

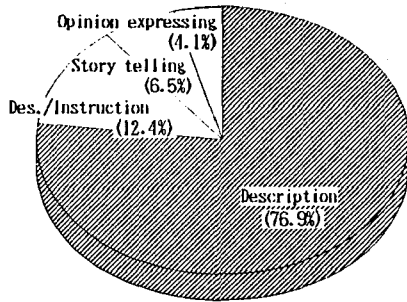


- ⑥ Main idea comprehension が高校で増えているのは良い傾向である。
- ⑦ Prediction のタスクは、単発的な発話に対しての反応を求めるものがほとんどであり、談話の global な理解を要求していない。
- ⑧ 当然のことであるが、負荷の重いと思われるタスクが高校段階で増えている。（Appendix E 参照）

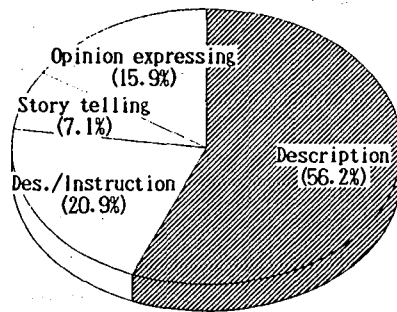
4.3.2. テキスト・タイプの側面から

① Description の passage が圧倒的に多い。【図7、8】

【図7】 text type の種類 (中学校)



【図8】 text type の種類 (高校0C-B)



② 高校段階で Opinion expressing を扱った passage が増えている。

③ 地図を用いてのタスクは Instruction とよくなじむ。

④ Sequencing をたずねるタスクは、Instruction あるいは Story telling とよくなじむ。

5. より良いタスク・デザインのための示唆

分析結果をもとに、今後より充実が望まれるタスクを2点に絞って提案してみたい。

5.1. 学習者に 'communicative responses' を求めるタスクの充実

上記の考察から、教科書におけるリスニング・タスクの特徴として、Description のタイプのテキストを与え scanning や Identifying に関わるタスクが多いことがわかった。この種のタスクは、input passage の表面的な理解と mechanical な反応で対応できる場合が多い。しかし、Rost(1990: 30)が

Understanding spoken language is essentially an inferential process based on a perception of cues rather than a straightforward matching of sound to meaning.

と述べているように、もっと学習者の思考力や判断力を引き出すようなタスクも与えたい。例えば次のようなタスクは、談話のより global な理解を要求し、答えの選択肢の表現が問題文のそれと異なるので、学習者に 'communicative responses' を求めるものとなっている。(尚、'communicative responses' の定義については Richards 1983: 234-35 を参照)

(タスク例)

ジェットコースターに乗ったあとで [Peggy と George]

(Script)

Peggy: My goodness! My legs are still shaking.

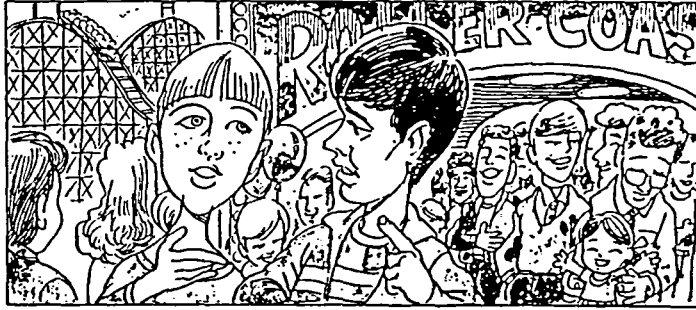
George: Well, this is just the beginning.

Peggy: You mean there is more? Let's go! I can't wait.

George: I felt the same way the first time I came.

Q1. How does Peggy feel about the ride?

Q2. How did George feel when he first came to the park?



- Q1. a. excited. Q2. a. funny.
 b. sad. b. thrilled.
 c. tired. c. scared.

(Birdland Oral Communication B: 65)

また、このことを Canale(1983)などのコミュニケーション能力仮説との関連で考えてみると、教科書におけるリスニング・タスクは、いわゆる grammatical competence のみで対応できるものが多いと解釈できる。他の sciolinguistic, discourse, strategic competences を要求したり、伸ばすようなタスクをもっと与えれば、学習者の 'communicative responses' をする能力を充実させることができると思う。

5.2. 学習者の skimming (とりわけnote-taking) skills を伸ばすタスクの充実

分析データにもあるように、Main idea comprehension や Full comprehension to summarize といった skimming に関わるタスクが少ないことが伺える。skimming の能力を身につけるためには、談話の macro markers について理解することが不可欠である (Chaudron & Richards 1986, Onishi 1994)。O'Malley et al.(1985)なども、学習者に色々な discourse markers に注意して passage を聞くように指導し、その効果について肯定的な報告をしている。また、分析の過程で、note-taking に関する系統的な指導が教科書ではほとんど見られないと感じた。初学者に対しては最初から autonomous な note-taking を期待することは不可能であり、それ故基本的な format をいくつか示し、まずはそれを利用させたい。(Hamp-Lyons 1983 にその例のいくつかが紹介されている。)そして、note-taking はあくまで個人的な作業であるので、個々の学習者の多様性や創造性を尊重するタスクでなければならない。このような点を強調したタスクが、今後より充実されることを望みたい。

6. まとめ

教科書におけるリスニング・タスクの分析結果から、Description のテキスト・タイプを用い scanning をさせるタスクが圧倒的に多いことがわかった。これは特に初学者に対しては極めて健全で着実なアプローチであり、教材作成者の意図がよく伝わってくる。ただ、ここで大切なことは、このような教科書の特徴をよく認識し、充実が望まれる分野のタスクを補っていくことである。機械的な反応で足りる表面的な解釈や scanning を求める作業だけでは、autonomous (自

立した) listeners を育てることはできない。もちろん、初学者に対して初めから autonomous な listening を求めることは不可能であるので、学習段階に応じて適切な support を与え、徐々にその support の量や質を変えていくべきである。その際に本稿で提案した 'Text type-task' matrix などは、タスクの負荷調整に役立ち、学習者に与えるタスクの作業領域バランスを点検するのに有益ではなかろうか。また、基本的なタスクに加えて、学習者に(1) 'communicative responses' を求め、(2) skimming (とりわけnote-taking) skills を伸ばすようなタスクが今後より充実されることを期待したい。

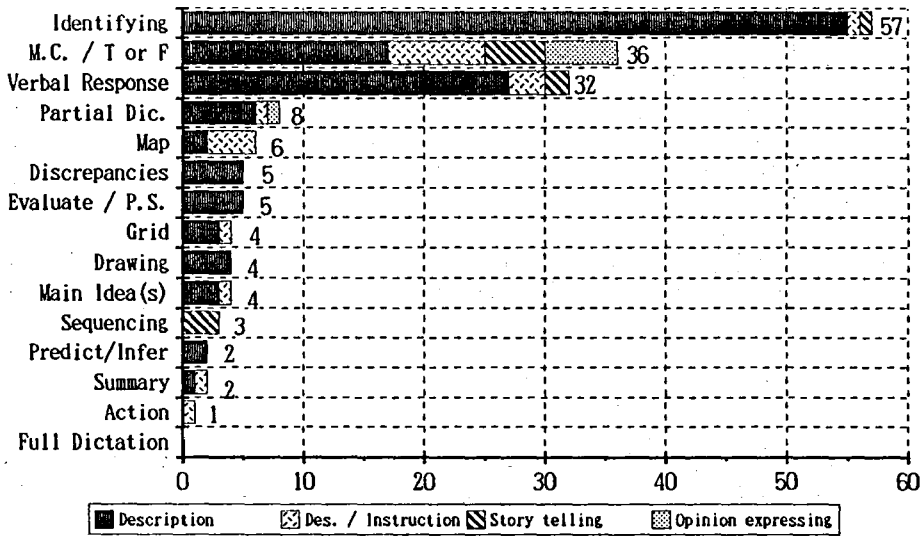
【 参 考 文 献 】

- Anderson, A. and T. Lynch. 1988. *Listening*. Oxford: Oxford University Press.
- Blundell, L. and J. Strokes. 1981. *Task Listening*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Brindley, G. 1988. *Factors Affecting Task Complexity*. In Nunan (1988b).
- Brown, G. 1990. *Listening to Spoken Language* (Second Edition). New York: Longman.
- Brown, G. and G. Yule. 1983. *Teaching the Spoken Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Canale, M. 1983. " From Communicative Competence to Communicative Language Pedagogy. " In Richards, J. C. and R. W. Schmidt (eds.) *Language and Communication*. London: Longman.
- Candlin, C. N. 1987. " Towards Task-Based Language Learning. " In Candlin, C. N. and D. Murphy (eds.) *Language Learning Tasks*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- Chaudron, C. and J. C. Richards. 1986. " The Effect of Discourse Markers on the Comprehension of Lectures. " *Applied Linguistics* 7, 113-27.
- Dunkel, P. A. 1985. " Listening and Notetaking: What Is the Effect of Pretraining in Notetaking? " *TESOL Newsletter* 12/85, 30-31.
- _____ . 1988. " The Content of L1 and L2 Students' Lecture Notes and Its Relation to Test Performance. " *TESOL Quarterly* 22(2), 259-81.
- Hamp-Lyons, L. 1983. " Survey of Materials for Teaching Advanced Listening and Note-taking. " *TESOL Quarterly* 17, 109-22.
- Krahnke, K. 1987. *Approaches to Syllabus Design for Foreign Language Teaching*. Englewood Cliffs NJ: Prentice Hall.
- Long, M. H. and G. Crookes. 1993. " Units of Analysis in Syllabus Design: The Case for Task. " In Crookes, G. and S. M. Gass (eds.) *Tasks in a Pedagogical Context*. Clevedon, England: Multilingual Matters.
- Lund, R.J. 1990. " A Taxonomy for Teaching Second Language Listening. " *Foreign Language Annals* 23(2), 105-15.
- Lynch, A. J. 1988. " *Grading Foreign Language Listening Materials: the Use of Naturally Modified Interaction*. " Ph.D. thesis, University of Edinburgh.
- McDonough, J. and C. Shaw. 1993. *Materials and Methods in ELT*. Oxford: Blackwell.
- Morley, J. 1991. " Listening Comprehension in Second/Foreign Instruction. " In Celce-Murcia, M. (ed.) *Teaching English as a Second or Foreign Language*. Boston: Heinle & Heinle.
- Nunan, D. 1988a. *Syllabus Design*. Oxford: Oxford University Press.
- _____ . 1988b. *The Learner-Centred Curriculum*. Cambridge: Cambridge University Press.
- _____ . 1989. *Designing Tasks for the Communicative Classroom*. Cambridge: Cambridge

- University Press.
- _____. 1991. *Language Teaching Methodology*. New York: Prentice Hall.
- _____. 1993. "Task-based Syllabus Design: Selecting, Grading and Sequencing Tasks." In Crookes, G. and S. M. Gass (eds.) *Tasks in a Pedagogical Context*. Clevedon, England: Multilingual Matters.
- O'Malley, J. M. et al. 1985. "Learning Strategy Applications with Students of English as a Second Language." *TESOL Quarterly* 19(3), 557-84.
- Onishi, K. 1994. "Effects of Top-Level Structure Signals on Listening Comprehension and Recall." *CASELE RESEARCH BULLETIN* 24, 215-23.
- Oxford, R. L. 1990. *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. New York: Newbury House.
- Richards, J. C. 1983. "Listening Comprehension: Approach, Design, Procedure." *TESOL Quarterly* 17(2), 219-40.
- _____. 1985. *The Context of Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- _____. 1990. *The Language Teaching Matrix*. Cambridge University Press.
- _____. 1992. "Real-World Listening in the Japanese Classroom." In Wadden, P. (ed.) *A Handbook for Teaching English at Japanese Colleges and Universities*. New York: Cambridge University Press.
- Rixon, S. 1986. *Developing Listening Skills*. London: Macmillan.
- Rost, M. 1981. *Listening Contours* (Second edition). Essex, England: Lingual House.
- _____. 1986. *Strategies in Listening*. New York: Lingual House.
- _____. 1990. *Listening in Language Learning*. London: Longman.
- _____. 1991. *Listening in Action*. New York: Prentice Hall.
- _____. 1994. *Introducing Listening*. London: Penguin.
- Schmidt-Rinehart, B. C. 1994. "The Effects of Topic Familiarity on Second Language Listening Comprehension." *The Modern Language Journal* 78(2), 179-89.
- Underwood, M. 1989. *Teaching Listening*. London: Longman.
- Ur, P. 1984. *Teaching Listening Comprehension*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Weir, C. J. 1990. *Communicative Language Testing*. New York: Prentice Hall.
- _____. 1993. *Understanding & Developing Language Tests*. New York: Prentice Hall.
- Wenden, A. and J. Rubin (eds.) 1987. *Learner Strategies in Language Learning*. New York: Prentice Hall.
- 金田 道和(1992)「これからのリスニング指導」『中国地区英語教育学会紀要』No.22, 289-91.
- 小池 生夫(1993)『英語のヒアリングとその指導』大修館.
- 竹蓋 幸生(1984)『ヒアリングの行動科学-実践的指導と評価への道標』研究社.
- _____. (1989)『ヒアリングの指導システム-効果的な指導と評価の方法』研究社.
- 田中 正道(1991)『コミュニケーション志向の英語教材開発マニュアル』開隆堂.
- _____. (1994a)「オーラル・コミュニケーションBにふさわしい教材と指導」『英語教育』2月号 11-13.
- _____. (1994b)「教科書教材と Authenticity」『現代英語教育』3月号 11-13.
- 藤井 健三(1986)『現代英語発音の基礎 -日英音声比較-』研究社.
- 吉田一衛(編)(1984)『英語のリスニング』大修館.

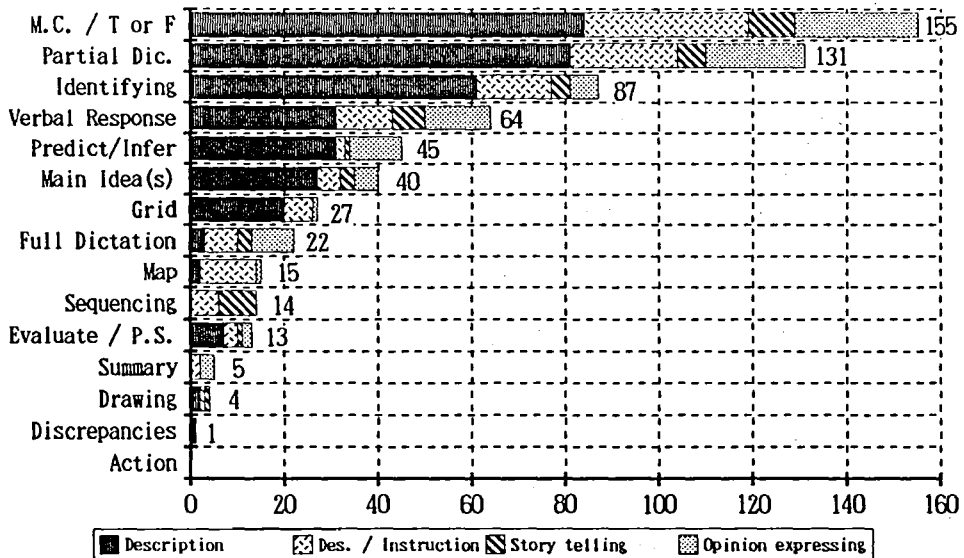
<Appendix C>

タスク・タイプの頻度順 (中学校)



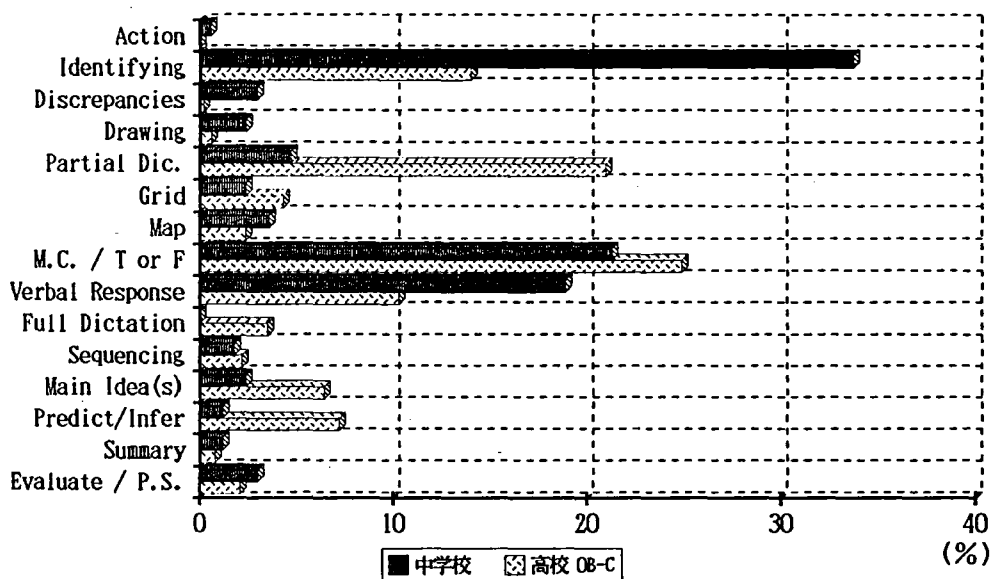
<Appendix D>

タスク・タイプの頻度順 (高校 OC-B)



<Appendix E>

中学校と高校 OC-B におけるタスク・タイプの比較



【タスク分析に用いた教科書】

(中学校)

New Horizon English Course 1, 2, 3. 東京書籍.

New Crown English Series 1, 2, 3. 三省堂.

Sunshine English Course 1, 2, 3. 開隆堂.

NEW TOTAL English 1, 2, 3. 秀文出版.

Everyday English 1, 2, 3. 中教出版.

(高校 OC-B)

Listen Oral Communication Course B. 桐原書店.

Hello, there! Oral Communication B. 東京書籍.

Birdland Oral Communication B. 文英堂.

Expressways Oral Communication B. 開隆堂.

Sailing Oral Communication B. 啓林館.